

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 …………… 御言葉に耳を傾け、心を主に向けましょう。 ps126
- *賛美 …………… 397番
- *交読文 …………… 28番
- *使徒信条 …………… 会衆一同
- *頌栄 …………… 107番
- 礼拝のための祈り ……… 川合ゆきえ姉妹
- 賛美 …………… 396番
- メッセージ …………… 忍耐して蒔き続けよ(使徒 16:6-15)
- 御言葉を適用する祈り … 会衆一同
- 賛美 …………… 390番
- 献金感謝の祈り ……… パスター
- 報告と歓迎 ……………
- *主の祈り …………… 会衆一同
- *祝祷 …………… パスター

祈祷課題

- ・この教会が神の御声を聞いて御心を行う教会となるように
- ・病、貧しさ、悲しみの内にある兄弟姉妹のために
- ・兄弟姉妹達がキリストの香りを豊かに世に放ち、仕事、事業が祝福されるように
- ・主に忠実で御霊に満ちた奉仕者が70名与えられるように
- ・終末の災いに実際に直面している兄弟姉妹の守りのために

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

起きよ、光を放て。_____の光が臨み、主の栄光が_____の上へのぼったから。
 見よ、暗きは地をおおい、闇は諸々の民を覆う。しかし、_____の上には主が朝
 日のごとくのぼられ、主の栄光が_____の上にあられる。
 諸々の国は、_____の光に来、もろもろの王は、のぼる_____の輝きに来る。目
 をあげて見ませ、彼らはみな集まって来る。_____の子らは遠くから来、_____
 _____の娘らは、かいなにいだかれて来る。その時_____は見て、喜びに輝き、_____
 _____の心はどよめき、かつ喜ぶ。海の富が移って_____に来、もろもろの国の宝
 が、_____に来るからである。多くのらくだ、ミデアンおよびエパの若きらくだは
 _____を覆い、シバの人々はみな黄金、乳香を携えてきて、主の誉を宣べ伝える。
 (イザヤ 60:1-6)

若き助け手テモテを仲間に加えたパウロ達は、いざ多くのいのちを刈り取らん、と、アジアへ繰り出して
 行ったが、あちらに行つては御霊に阻まれ、こちらに行つても阻まれ、そうしてはるばるトロアスまで来た。
 使徒 16 章 6-8 節の、わずか 3 節で記されている行程は、千キロは超えているはずで、交通手段の発達し
 ていない当時としては、途方も無い距離である。
 行く所行く所、御霊によって阻まれ、たましいの刈り取りができず、思っていたようなミニストリーもうまく行か
 ず、行くべき所も長い間示されない働き人達には、どれほどの苦勞、落胆、苛立ちがあった事だろう。

パウロはアジアでの宣教、魂の刈り取りに情熱を持っていたが、実は、それは主の御心とは違う所だった。
 ある夜、主から示された幻があり、その中で一人のマケドニア人が現れ、「マケドニアに渡ってきて、わたし
 たちを助けて下さい」と、彼に懇願していた。(9 節)
耕されていない畑に種を蒔く働きは不毛であり、救われて欲しいという懇願が無い者を救う事は、難しい。
人の目には見えないが、主が示す地こそいのちの穂が熟し、働き手による刈り入れを待っているのである。
導きが示されたなら、握りしめていた自分のビジョンを捨てる事に、躊躇すべきではない。
 彼らは早速、トロアスから船出し、ネアポリスからマケドニアのこの地方第一の都市、ピリピへと行った。
 しかし、そこにはユダヤの会堂は無かった。ユダヤの会堂が立つには最低 10 人のユダヤ人男子が必要
 で、ピリピには、主を敬うユダヤ人男子は 10 人もいなかった、という事である。
 会堂が無い場合、神を敬う人達は、川岸の適当な場所(身体を清める等に適すため)で安息日の礼拝を
 行う。パウロ達はなんとかその場所を見つけたものの、そこには、女達しか集まって来なかった。
 パウロ達にしてみれば、ピリピに至るまで千キロ以上もさ迷い歩いた挙句、やっと到着したその所は、会堂
 も無く、祈り場に集うのも女達だけという霊的僻地で、がっかり続きだったかもしれない。
 しかし主には、人知を遥かに超えたご計画があり、主の時が満ちた時、主は働き人を用いて実行される。

パウロがそこで福音を語った時、主は、テアテラ市の紫布の商人でルデヤという神を敬う婦人の心を開き、
 彼女もその家族も共にバプテスマを受けた。『その時、彼女は「もし、わたしを主を信じる者とお思いでした
 ら、どうぞ、わたしの家に来て泊まって下さい」と懇望し、しいてわたしたちをつれて行った。』(使 16:14-15)
 パウロ達は、ルステラから千キロ以上の道のりと労苦の末、やっと、たましいの刈り取りが出来、働き人達が
 温かいもてなしを受け、安息できる「家の教会」が、この時建った。
 この「ピリピ教会」は、パウロにとって実に思い入れのある教会となり(ピリピ 1:1-6)、後にこの教会は成長し
 て、監督や執事も立てられ、パウロの働きのために物質的援助をするまでに成長した。(ピリピ 4:14-20)

ピリピで教会が建つまでのミニストリーは、多くの苦勞と落胆、苛立ちがあったが、実は、パウロ達がアジア
からヨーロッパに渡り、ピリピに教会を設立した事は、後の歴史を大きく揺るがす重要な出来事である。
 ヨーロッパ。その後、福音が大いに広められ栄えた地域であり、キリスト教抜きに、その歴史は語れない。
 ピレンヌという歴史学者は、ルデヤの家の教会が建った瞬間、ヨーロッパ文明社会そのものが始まった、と
 さえ言っている。このささやかな、ルデヤの家の教会こそ、ヨーロッパ文明発祥の地となったのだ。
 ノアは「神がヤペテを広げ、セムの天幕に住まわせるように。」(創世記 9:27)と預言していたが、キリスト以
 降、ヤペテの子孫(白色人種)に福音が最も普及し、結果、セム(ユダヤ)の恩恵を最も受けた民族となった。
 「お前は聞いたことがないのか／はるか昔にわたしが計画を立てていたことを。いにしへの日に心に描い
 たことを／わたしは今実現させた。」(イザヤ 37:26)
 私達のビジョンと、主のビジョンが違っていると分かったら、すぐに自分の方法を捨て、主に従うべきである。
 もしすぐに示しが与えられないとしても、忍耐強く御心を求め続けるなら、いずれ私達が行くべきマケドニ
 ヤへと導かれ、建てるべきピリピ教会が建ち、後にはヨーロッパの救いへと発展するのである。
 私達が建てるべき「ピリピ教会」は、何だろうか。救うべき「マケドニア人」は、どこにいるだろうか。
 主に導きを求め、目に見える刈り取りが見えなくても忍耐して導きに従い続け、後には、委ねられた「ピリピ
 教会」を建て、「マケドニア人」を救う皆さんでありますように。イエス様の名前によって祝福します！

